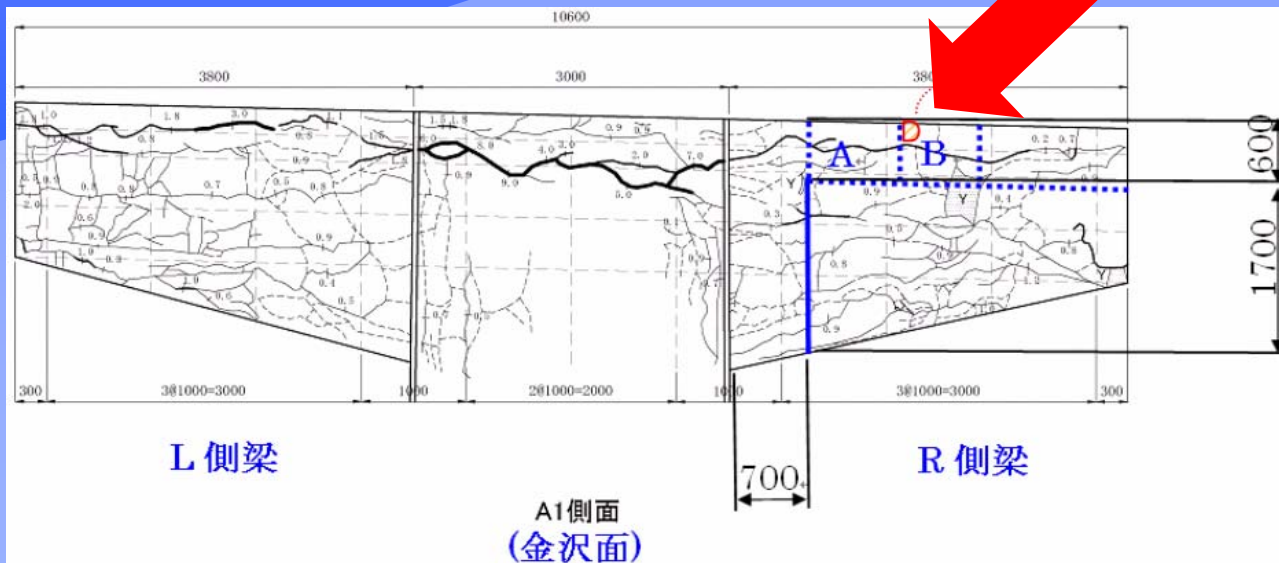


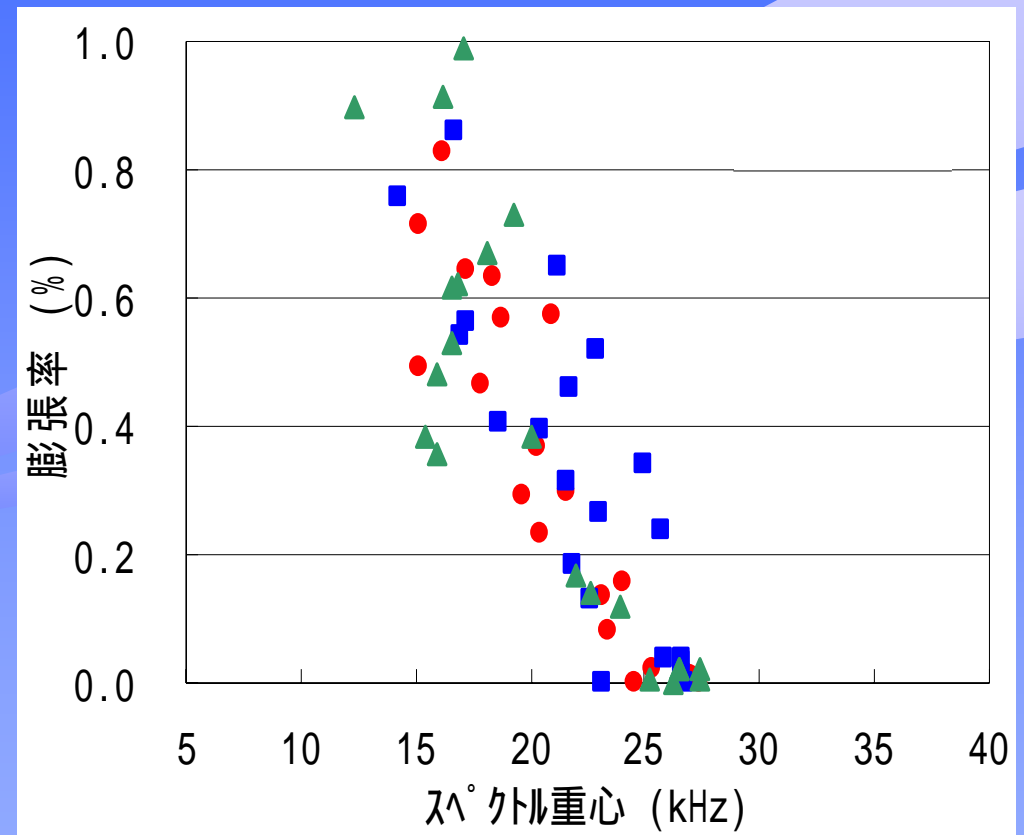
ASR劣化が顕在  
化していても内  
部の劣化を外観  
だけでは判定で  
きない



金沢、Bブロック柱側



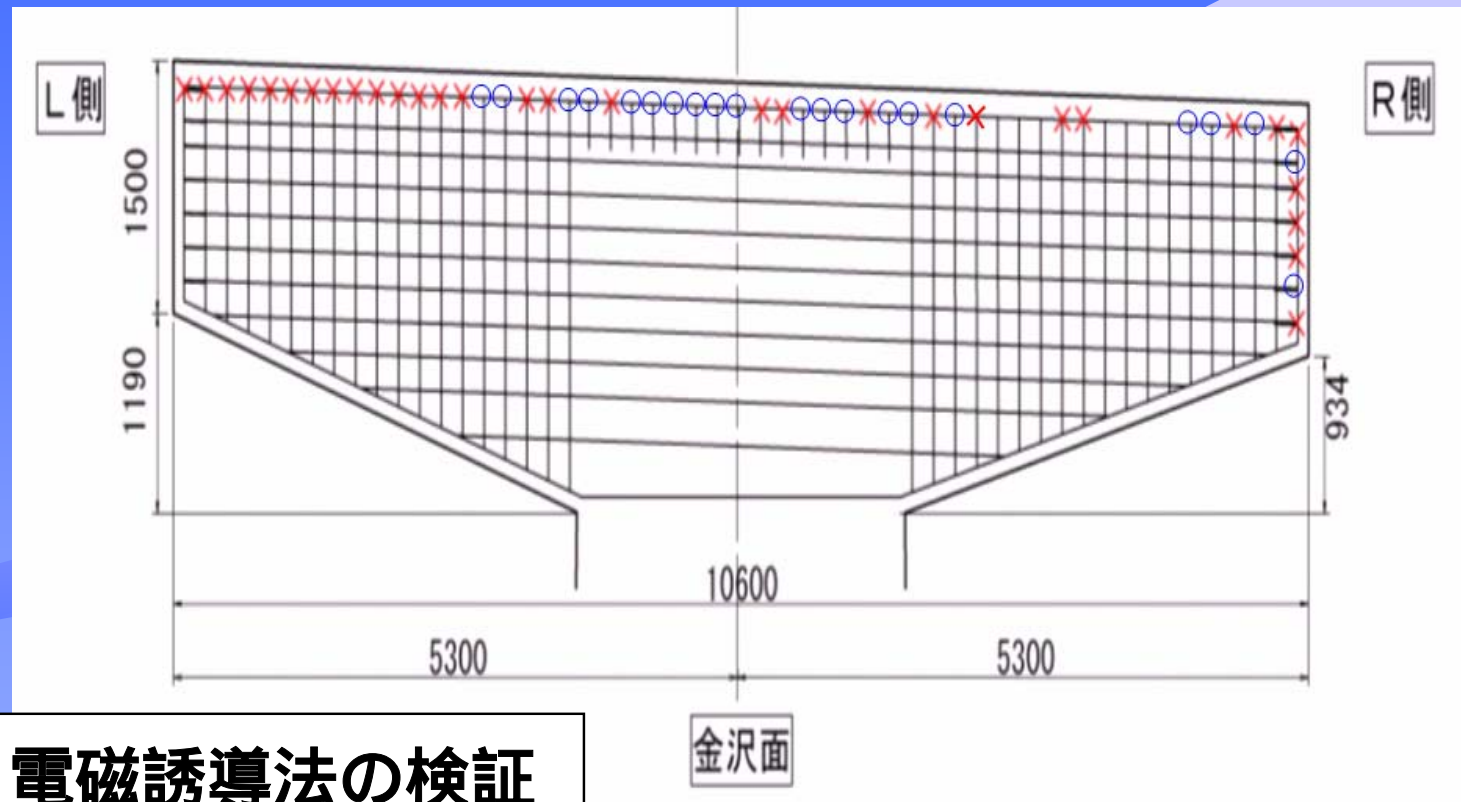
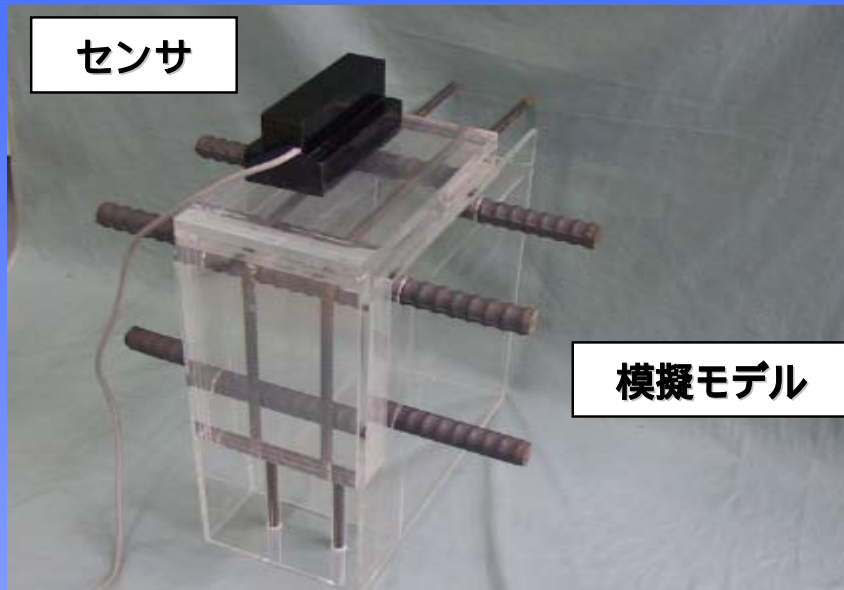
# 超音波法で内部のひび割れによる劣化診断を行う



測定要領

膨張率とスペクトル重心

# 電磁誘導法で鉄筋破断の有無を 非破壊的に検査する



## 測定要領

### 電磁誘導法の検証

- ・金沢側 23/30 77%
- ・穴水側 14/19 74%

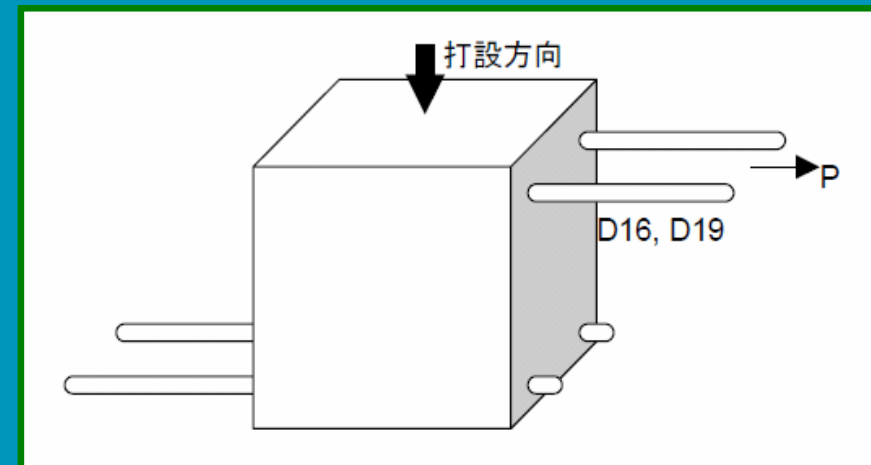
## 測定事例

## 構造安全性評価について

(1) ASR劣化が進行するとコンクリートの劣化や曲げ加工部での鉄筋破断だけでなく、鉄筋の付着力低下も懸念される。

(2) ASR反応性骨材を用いたRC供試体を用いて、超音波法や電磁誘導法の測定結果と載荷試験結果とを比較検証する計画を進めている。

(3) 平成18年度には、軽微なASR劣化状態の供試体を用いて付着・定着特性に関する実験や、曲げ・せん断破壊試験から、付着劣化が耐荷性能に与える影響について基礎的なデータ収集を行う。



供試体の形状